日吉大社自然観察倶楽部通信

No.19　ついに日吉桜（ひよしざくら）を植樹！

H２６年２月２日

小雨も降る寒さの中、９名の会員と共に日吉桜の植樹を行いました。私たちは、以前から日吉大社境内にあり、今は失われたヤマザクラの品種である日吉桜（写真右）を復活させる活動を続けています。今回は、その第一歩となる苗木を、日吉大社の赤の鳥居をくぐって、すぐ右の敷地に植えました。

まずは、日吉桜の紹介から。さくらとは本来、穀物の神の依代を意味し、主に野生種・栽培品種に分けられます。その中でも、日吉桜は野生種のヤマザクラの栽培品種です。桜の代表的な品種であるソメイヨシノとは違います。

昔、「地主権現」と呼ばれた東本宮の近くにあった桜の大木は、地主桜(じしゅざくら)とも呼ばれていました。室町時代の曼陀羅によると、日吉大社に桜が点在していたことも分かります。昭和になって、桜守として有名な佐野藤右衛門さんが日吉大社の境内にあった桜を日吉桜と命名しました。現在、図鑑に「日吉大社に原木がある」と記載されていますが、実際は 20 年ほど前に最後の一本が枯れてしまいました。そこで、私たちは日吉桜の会を結成し、日吉桜を日吉大社に復活させたいと活動を続けてきました。日吉桜をふるさとの木として育てたい思いです。

H23 年 11 月	日吉桜の会を結成、植栽する場所選び・整備
H24 年 2 月	日吉桜の学習会　→　4 月　植藤造園で日吉桜見学会
H25 年	鹿除け柵やネットなど植樹の準備、日吉桜の苗到着
H26 年 2 月	植栽　→→→　H27 年 4 月　花が咲く予定？

以上のような経緯を経て、今回の植樹へとなりました。桜の植樹には、冬が適していると言われます。休眠状態にあるため、春から秋の活動期に比べて、根へのダメージが少ないからです。まずは、仮植えしてある苗場から、苗を運びます。苗の桜は種から育てられ、3 年目です。大きさは、4 mほどで、芽がしっかりついています。一人で運ぶのは大変です。この頃からは、雨も止み、天気も味方してくれました。京都新聞と読売新聞と産経新聞の記者さんも取材に到着、2 月 3 日の記事に取り上げていただきました。

植栽場所には、八角形の柵の土台が組まれ、その真ん中に穴を掘りました。堆肥を加えた後、日吉桜の苗を植え、土を戻した状態が右の写真です。

水を加えて、苗を土になじませた後に、支柱を立てました。苗木を固定する大切な役割を担います。支柱と苗が接するところには麻布を巻き、摩擦によるダメージに対処しました。

左の写真は、支柱を番線で固定しているところです。プロの技が光ります。

これで作業は終了です。日吉大社を含め、坂本の観光名所が一つ増えた事になります。

ただ、残念ながら、今年の春に花が咲くかどうかは分かりません。植えたばかりなので、根の張り具合がまだ十分でないためです。来年の春には日吉参道の桜並木と日吉桜の競演がある事を望んでいます。毎年４月に行われる山王祭にも、日吉生まれの日吉桜が花を添えてくれることでしょう。皆様、是非、花が咲いているかどうか、日吉大社まで足をお運びください。鳥居をくぐって、すぐ右手です。

日吉大社宮司の馬渕さんの言葉を紹介して、結びとします。「植物は、人の言葉が分かる。いろんな人に見られ、褒められることで、その言葉に応えて、成長してくれる」。

たくさんの人が日吉桜を見て、興味を持ち、「がんばれよ！」と声をかけていただくことで、桜もすくすく成長していき、ふるさとの木として大切に見守られていくことを願っています。

集合写真　⇒

日吉大社自然観察倶楽部のＨＰの中で、今までの通信や活動予定などを紹介しています。

※日吉大社生まれの桜と言われる日吉桜のサポーター・募金を募集しております。詳しくはＨＰから。

日吉大社自然観察倶楽部ＨＰ

http://hiyositaishasizenkansatu.jimdo.com